

Q7

石木ダム事業費の増額で、水道代が高くなるのでは？

A 石木ダムの経費が現行料金に与える影響は限定的です。逆に、水源不足が続くと、将来の料金負担を大きくする原因になります。

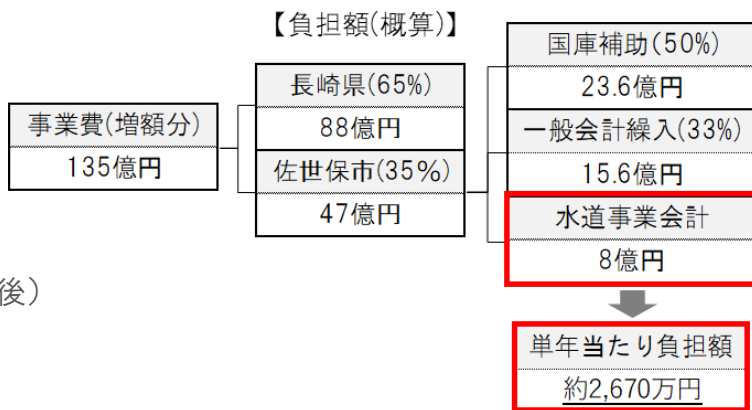
建設事業費の増額分の影響

令和7年度に、石木ダム建設の事業費が135億円の増額（285億円⇒420億円）となりましたが、事業費のうち65%は長崎県が負担します。

佐世保市が負担する35%のうち、1/2は国庫補助金。1/3は一般会計の負担となりますので、水道料金で賄う必要がある事業費は約8億円となります。

この8億円は、企業債を活用して30年間で繰り延べて負担することになりますので、単年当たりの負担額は約2,670万円となります。

（現在の年間事業規模の0.5%前後）



今回の水道料金に占める石木ダム経費の割合

水道料金の基となる経費（総括原価）に占める石木ダムの割合は1.5%と限定的です。

これを今回の料金改定率に置き換えると、令和10年度の最終改定率27.5%のうちの約0.4%にあたります。



水源不足が解消されなかった場合の料金に対する影響

水源不足が解消されない限り、量を抑えて単価に求める節水型の経営を続ける必要がありますし、給水制限の度に値上げをするリスクを抱え続けることになる等、将来の料金負担を大きくする要因となります。（「Q8」をご参照ください。）